

「ウナギ絶滅の危機」 研究者ら不漁で対策会議

水産庁

3月24日



ウナギ不漁で水産庁が開いた対策会議
—22日午後、東京都千代田区

は乱獲や生育環境の破壊、海洋環境の変動などが考えられるとし、「一つではなく複合的」とした。同研究所の塚本勝巳教授は早急な漁獲規制や河川の環境保全を訴えた。

対策の一つとして天然のシラスウナギを使わない「完全養殖」が考えられているが、完全養殖の実用化に取り組んでいる水産総合研究センターの田中秀樹氏は、高い飼育コストや生存率の低さをまた課題が多いと説明した。

本県や鹿児島県といった産地での資源保護の現状も報告された。水産庁は「うなぎ料理は国民に親しまれており、安定供給は重要だ」として、対策の具体化を進める方針を示している。

ウナギの養殖に使われる稚魚(シラスウナギ)が極度の不漁となっている問題を受け、水産庁は22日、研究者や漁業団体、自治体の担当者らを集めた対策会議を都内で開いた。東大気海洋研究所の青山潤特任准教授は「ウナギが絶滅の危機にひんしている可能性がある」と指摘。原因